

## 結婚50年 初めての沖縄5日間

11月19日~23日にかけて初めての沖縄へ出かけました。阪急交通社のツアーで、こちらの都合にかなうコースがあったことで決めました。

### 1 ショートステイとツアー催行日

リタイアした頃には年に2回程海外へ出かけていました。当時は母も元気で、娘たちに少しお手伝いを頼むことで気軽に家を空けられました。しかし、最近は母も97歳となり一人にしておくことはできず、ショートステイにお願い出来る日と希望するツアーコースの催行日が一致しないと、それもありません。それなら無理をしなければいけないのですが、今年は私たち夫婦にとっては人生の大きな節目となる『結婚50年』の金婚式です。後で後悔するより今のうちにできることにはチャレンジした方が良く、という考えから検討しました。先に確認したショートステイの可能な日には、11月19日~22日の確認が取れました。これをもとに行きたい場所の中から沖縄5日間のコースにすることにしました。国内の旅もあちこちへそれなりに出かけましたが、石垣島・竹富島・西表島は入ったものの沖縄本島へ行ったことがありません。太平洋戦争最後の激戦地であり、今も米軍基地の問題に揺れる沖縄です。私の父も激戦の地フィリピンのミンダナオで戦死しました。それもあり一度は沖縄を訪れたいと

思っていました。

ツアーコースは11月19日から23日とおあつらえ向きの沖縄コースがあり、申し込みをしました。しばらくしてから、ふと気が付きました。私はショートステイ11月19日から22日は、19日から22日まで宿泊して23日に帰るものと思っていました。が、どうもおかしい、22日までと考えるべきと気が付き確認すると、やはりそうでした。

あわてて23日に帰る旅なので、23日までお願いできないものか相談しましたところ、調整出来る余地があるということでした。そして、翌日にはOKの返事がもらえてほっと胸をなでおろしました。こうして母の初めての5日間のショートステイと、私たちの記念すべき旅が実現することになりました。

### 2 出掛けから、あれあれ…!

セントレアを利用する時にはいつも「日の出パーキング」を利用してきましたので、今回も予約をしました。セントレア18時10分集合、19時出発のJTA44便(日本トランスオーシャン航空)を利用します。そのため17時30分頃に日の出パーキングに到着するように出かけました、が、暗くなって久しぶりの利用もあって左折する所を行き



過ぎてしまいました。でも大体この辺りは分かっていたので、少し戻るだけで到着。

セントレアについて 3 階の出発ロビーへ上がるためエレベーターに乗りました、その時私たちにくっついて一人の青年が乗り込んできました。3 階で降りて旅行社のカウンター 20・21「阪急交通社」を探したのですが、見つからずどうも雰囲気がおかしいと思いました。搭乗手続きをするカウンターがないのです、うろうろ見回して妻が見つめました。それは、今いるところが 3 階ではなく 2 階の表示があったのです。私は間違いなく 3 階のボタンを押した記憶がありました……そういえばすぐ後ろにくっついて乗り込んできた人がいたが、その人が先に 2 階のボタンを押したのだと気が付きました。エレベーターで 1 階上がると、見たことのある風景がありヤレヤレ。思わぬとばっちりを受けたものです。しかし、これも年寄りの特徴である「柔軟に考えることができず、思い込みが激しくなった」ということでしょうか…

### 3 ピンクのジンベイザメは 1,302km を 2 時間 30 分で飛行

18時30分に搭乗手続きをして4番ゲートに向かいました。もっとも端っこに近いゲートでかなり歩きましたが、あまり人影がありません。この時間に飛ぶ便が少ないようです、これだけ立派な施設なので少しもったいないくらいと



感じました。時間になり乗り込みましたら、ボーデンプリッジから見える JTA44 便の機体はピンクのジンベイザメが描かれていました。沖縄を連想させるにはジンベイザメが効果的のようで、機内に置かれた PR 雑誌を見たらブルーとピンクのジンベイザメを描いた機体が運航されていることが分かりました。

飛行機は B737-800 で乗客 165 名、巡航速度 840km で航続距離 4500km。名古屋と沖縄の距離は 1,302km を行は 2 時間 30 分、帰りは 2 時間で飛行します。西に向かう時は偏西風に逆らって飛行するので、それだけ風の影響を受けるということ

とです。

予定通り 21 時 20 分那覇空港に着陸。夜なので周りの状況はよく分からないが、那覇空港は一日約 100 便、年間 2000 万人が利用する国管理の空港。着陸回数では 5 位、旅客数 6 位の基幹空港となっている。便数の多いのは①羽田 29 便②福岡 20 便③名古屋 12 便④関西 11 便。しかし、3000m の滑走路一本のため需要増による限界に近づいており、そのうえ自衛隊のスクランブル発進との競合もあって滑走路の増設工事が進められている。今の滑走路に並行する 2700m 一本を、海を埋め立てて造る。予定では 2020 年春に使用が開始されます。

### 4 沖縄県の概要

沖縄県の概要を整理しておこう。人口は約 145 万人、県知事玉城デニー、本土復帰記念日 5 月 15 日、慰霊の日 6 月 23 日、県の木リュウキュウマツ、県の花ディゴ、県の鳥ノグチゲラ。新聞は全国紙のうち日経のみが琉球新報に委託して、朝刊だけをその日の朝配達している。他の全国紙は朝刊が夕方になる。地元紙は愛知でも知られている「琉球新報」「沖縄タイムス」の 2 紙があり、そのシェアは 70 パーセント。大学は国立 1、公立 3、短大 2。

#### ★沖縄の自然

亜熱帯の気候で貴重な動植物が多い、ノグチゲラ、ヤンバルクイナなどの天然記念物の貴重な生物が生息して

いる。梅雨と台風による降雨が多い、が、大きな川が少なくすぐ海に流れてしまうため水不足に陥りやすい。

### ★沖縄の歴史

- 1429年(宣徳4年) 琉球王国が成立
- 1609年(慶長14年) 薩摩藩による琉球侵攻。これ以降薩摩の直轄地。
- 1853年(嘉永6年) 黒船来航
- 1872年(明治5年) 琉球藩設置
- 1879年(明治12年) 琉球藩を廃止、沖縄県設置
- 1925年(大正14年) 首里城正殿、国宝に指定される
- 1945年(昭和20年) 沖縄戦により首里城焼失
- 1972年(昭和47年) 日本本土復帰
- 1989年(平成元年) 首里城正殿の復元工事に着手
- 1992年(平成4年) 首里城正殿の復元完成、公園一部開園
- 2000年(平成12年) 九州・沖縄サミット開催 首里城跡などが世界遺産へ登録される

### ★沖縄の産業

日本屈指の観光立県でありサービス業が県経済の中心になっている。観光以外に目立った産業がなく、米軍基地が生み出す経済に依存している側面が強い。基地内のオフィス、ショッピングセンター、病院などに約9000人が働いていて、沖縄県庁に次ぐ大口の就職先となっている。失業率は日本一高い県。

生活用品は離島県であることから、生産できない生鮮野菜・電気製品・自動車などは輸送費の分だけどうしても高くなってしまう。

## 沖縄初日

### 5 朱色の御殿は日本の城とは違う

#### ★朝からいきなりトラブル

二日目はホテルを9時に出発するためにバスに乗り込んだ。ところが、後ろの席で何かウロウロしていて着席しない人たちがいた。添乗員が後ろの席へ行き何かを確認して戻ると、「申し訳ありません、バスの配車ミスで4名様が座れません。観光バスは補助席が使えませんので、対処方法を確認しますので少しお待ちください」と言うではないか。昨夜のバスが来るはずなのに違うバス、それも座席数が少ないバスが来たのだった。その結果、最初の観光地でバスを入れ替えることになり、4人はタクシーで移動することで出発した。

出鼻をくじかれたとはこのことで、いやなスタートになってしまいました。それでもお天気は素晴らしい観光日和

でした。まず向かったのは今回の目玉でもある『首里城』の見学です。

(写真は首里城から見た街)

#### ★首里城とは

首里城の創建は14世紀ごろと言われますが、詳しいことは分かっていません。そして、1406年に尚巴志が琉球王国支配のための居城として以来、1879年最後の国王・尚泰が明治政府に明け渡すまで、約500年にわたって琉球王国の政治・外





交・文化の中心として栄華を誇りました。

1945年の沖縄戦で焼失しましたが、1992年沖縄の本土復帰20周年を記念して18世紀の首里城をモデルとして復元されました。鮮やかな朱色に彩られたその姿は、王国の歴史・文化の息吹を伝える殿堂であり、沖縄のシンボルそのものといえます。その中国と日本の築城文化を融合した独特の建築様式や、石組み技術には高い文化的・歴史的価値があるとされ、2000年12月日本で11番目の世界文化遺産に登録されました。

### \*見学の順番まずは「守礼門」

駐車場を出てまず初めに向かうのは、2000円札に描かれている「守礼門」を抜けていきます。ここでは多くの人が記念写真を撮るために人だかりがして、門だけの写真を撮るのはとてもできそうにありません。私も適当に



数枚シャッターを押しました。その少し先に、ちょっとだけ石造りの塀が付いた門がありました、「園比屋敷御獄石門(そのひゃんうたきいしもん)」で、世界遺産になっています。これは国王がお出かけの時、道中の安泰をこの石門前で祈願したといひます。

次に高い城壁の勸会門にくと、石垣の高い城壁が遠くまで連ってお城の雰囲気が高まります。その門の前には阿吽の狛犬がにらみを利かせています。そこから階段を上がり瑞泉門、漏刻門を抜けると那覇の街が見渡せるすばらしい眺望が広がります。そして、朱塗りの広福門をくぐると広場にでます。こ

こで820円の入場券を購入して奉神門をくぐり正殿のエリアお庭に入ります。

### \*正殿は国王が政治や儀式を行うところ

朱色に輝く正殿は日本のお城とは趣が異なり、琉球王国が存在したことを実感します。奉神門をくぐると正面に



正殿が鎮座し、右側には番所・書院と黄金御殿が、左側に実務を行った北殿が連なる造りになっています。見学者は右側の番所・書院を見て黄金御殿を通ります。この黄金御殿は国王や王妃のプライベートゾーンにあたります。次に正殿に向かいますと中央には王が座る玉座があり、その左右に金色の龍柱が立っています。ここで政治や外交が行われたのです。

首里城はその役割から、大きく三つの空間に分けられます。①正殿・北殿・南殿など政治や外交が行われた「行政空間」②信仰上の聖域が点在する「祭祀空間」③国王とその家族が住む「生活・儀礼空間」。

### \*冊封使(さっぽうし)を歓待した北殿

北殿は評定所と呼ばれる重要案件を詮議した政務の中枢機関です。また、冊封使(さっぽうし)を歓待した場所でもありました。冊封使(さっぽうし)というのは、新国王が誕生すると、中国から冊封使(さっぽうし)と呼ばれる皇帝の使節が来航し、その就任を認める儀式が執り行われました。

### ★バス車内の説明あれこれ

・首里城は常に修理が行われていることから、地元では「修理城」と呼ぶ

- ・沖縄には杉がないので杉花粉はなく、その時期だけでも沖縄に住む人たちが増えている。一時生活者のためにレオパレスが増えている。家賃は月に 5.5～6 万円くらいか
- ・沖縄の人は雪、紅葉、電車にあこがれる
- ・最近モノレールが出来たが、主役は車。そのためか中古車は売り上げ No1、自転車は少ない。確かにほとんど街中では見かけなかった



勸会門



正殿の玉座

## 6 ひめゆり平和祈念資料館の見学

午後はオプションで南部観光に参加した。行先はひめゆり平和祈念資料館、平和祈念公園、おきなわワールドの三か所。ツアー参加者48名のうち半数ほどの参加だった。最初はひめゆり平和祈念資料館で、お土産屋さんの駐車場にバスを止めて道路反対側の資料館に向かう。この横断歩道は短い時間でたくさんの観光客が渡れるように工夫されていて、めちゃめちゃ幅が広くて20m ほどあって、どこからでも横断できるようになっていた。こんな横断歩道は初めて見たが、このように実態に合わせて工夫することが必要だと思う。

これまで「ひめゆりの塔」という言葉に聞きなれていたが、塔というよりは大きな「碑」が当時の沖縄陸軍病院第三外科壕跡の隣にある。多くの学生たちや年配の方たちがお参りに来ていた。私たちも碑の前で手を合わせてお参りをした。その後で隣の平和祈念資料館で、当時の様子について写真やパネルを見て回った。女学生たちの顔



写真がずらりと並び、戦争の悲惨さと無慈悲さをどのように受け止めればよいのか……

### ★ひめゆりの言葉

ひめゆりは植物の花のことでなくて、沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校にあった校友会誌の「おとひめ」と「白百合」を合わせて「姫百合」となりました。ひらがなで「ひめゆり」を使うようになったのは戦後からです。

\*米軍の沖縄上陸

・1945年3月23日深夜、沖縄師範学校女子部と沖縄

県立第一高等女学校の生徒 222 人、教師 18 人は南風原の沖縄陸軍病院に配属されました。

・米軍は3月26日慶良間列島に侵攻、4月1日沖縄本島中部に上陸



- ・5月下旬米軍が迫る中、学徒たちは日本軍とともに本島南端部に向かいます
- ・6月18日突然の「解散命令」、学徒たちは米軍が包囲する戦場を逃げまどい、砲弾やガス弾でそしてある者は自らの手りゅう弾で命を失いました。動員された240人のうち136人、在地部隊その他で91名がなくなりました
- ・日本軍は米軍の本土上陸を一日でも遅らせるため、壕に潜んでの防衛・持久作戦をとりました。沖縄を守備するため、県民の根こそぎ動員を企て学徒隊を編成し生徒たちの戦場動員を強行しました。その結果、12万人余に上る沖縄住民の犠牲をうみました。
- ・6月23日牛島司令官が自決

## 7 青い海を臨む「平和祈念公園」

ひめゆり平和祈念資料館を見学して次に平和祈念公園へ向かいました。そこには青い美しい海が広がり、緑の芝生の中に亡くなられた人の名前が刻まれた「平和の礎」が立ち並んでいました。沖縄の墓地らしくその礎に木陰を作るように、葉っぱを広げた「モモタマナ」の木が立ち並んでいました。

平和の広場の中心に「平和の火」が灯されますが、この火は沖縄に米軍が最初に上陸した座間味村と、被爆地の広島平和の灯と、長崎の誓いの火から分けられた火を合わせ、6月23日慰霊の日に灯されます。刻銘碑には敵味方関係なく戦死者すべての241,525人(2018年6月1日時点)の名前があります。愛知県出身の人の名前は相川さん、青木さん青野さんという名前が初めに並んでいました。



戦没者全員の名前が刻まれた「平和の礎」



平和の火

### \*建設までの経緯

- 1990 沖縄戦メモリアル構想 … ドキュメンタリー作家上原正稔はワシントン DC ベトナム戦争戦没者慰霊碑のことを知る、が、そこには亡くなったベトナム人の名前がなかった。
- 1992 平和の礎建設委員会
- 1993 全戦没者の調査
- 1995 完成除幕

無意味な戦争に突き進んでしまったことは非難されるべきだが、亡くなった人すべての戦死者の慰霊碑を立てたことは日本人の心もまだまだ捨てたものではないと思う。幾何学的に美しく並ぶ碑と緑や青い海を見ていると、戦争があったことさえ思いつかない風景だ。そんなに美しい沖縄、そして日本を大切に守りたいものと思った。

## 8 おきなわワールドの玉泉洞

次に向かったのはおきなわワールド、何の施設かと思いきや鍾乳洞とエイサーやハブのショーを見せるところ。さほど興味の持てるところではないが、コースに組み込まれているのでいやでも連れていかれる。鍾乳洞は「玉泉洞」と言い、天然記念物に指定されている。30万年の年月が創りあげた大自然の造形美をうたっている。沖縄がアメリカの統治下にあったころ愛媛大学の調査隊によって最初の探検・調査が行われた。鍾乳石の数は100万本以上で国内最多、全長は5kmで国内最大級といわれる。現在は890mを公開している。

昨夜の天気予報で、きょうの沖縄の気温は27度といていたが、いつも風が吹いていて気持ちの良いくらいだった。しかし、鍾乳洞に入ると蒸し暑くてたまらなかった。だからのんびり鑑賞する気分にはなれなかった。鍾乳洞を急いで出てから他の施設を見て回るも、少し疲れてのども乾いたので珍しい「ブクブク茶」の看板があるお店に入り休憩した。でもブクブク茶ではなくシークワサーを頼んだが、なかなかおいしかったです。



玉泉洞



王国村のお店

これで沖縄初日の観光を終えて那覇市の県庁前に戻り、自由行動だった人たちと合流しホテルへ向かうことになります。この時、阪急交通社の方がバスの配車ミスを詫びるため乗り込み、お詫びの印に沖縄名産のちんすこうを一つずつ手渡されました。この人が帰ってから添乗員が重ねてお詫びの挨拶をすると、後ろの方から「明日も間違えていいよ」と声が飛び、車内がどっと沸きました、確かにそのとおりです。

明日のメインは海洋博公園とオリオンビール工場の見学です。